



伝藤原為家筆『源氏物語』断簡
実践女子大学蔵

古筆切研究の未来

—文理融合研究の成果 第1回—

日時 二〇二二年七月一〇(日)

一一時～一三時

会場 実践女子大学

渋谷キャンパス

※ハイブリッド開催



ハンドヘルド蛍光X線
(XRF) 分析装置
X-MET8000

◎プログラム◎

開会の挨拶

佐藤悟 実践女子大学教授

発表 発表時間 1人20分および鼎談

舟見一哉 実践女子大学准教授

データ駆動型・文理融合型の古筆切

研究は確立できるか？

横井孝 実践女子大学名誉教授

日比谷孟俊 実践女子大学文芸資料研究所客員研究員

澤山茂 実践女子大学文芸資料研究所客員研究員

高精細デジタル顕微鏡と蛍光X線

分析器による伝為家筆本源氏物語の

紙質調査

海野圭介 国文学研究資料館教授

古筆切研究と料紙分析の現在と未来

…古筆切研究の展望と課題

コメンテーター

金子馨 出光美術館学芸員

閉会の挨拶

山本和明 国文学研究資料館教授

司会

松原哲子 国文学研究資料館機関研究員



高精細デジタル顕微鏡
VHX-8000

シンポジウム終了後、対面会場では高精細デジタル顕微鏡を実際に資料を観察する様子をご覧ください。

お問い合わせ先：jissen-genji【at】jissen.ac.jp

※【at】は@に変換の上、お問い合わせください。